平成３０年度
（第２９期）
事　業　報　告

社会福祉法人ＡＪＵ自立の家

目次

・法人本部

・平成 30 年度を振り返って　・・・・・・・・・・・・・・・・　１

・社会福祉法人ＡＪＵ自立の家　事業概要　・・・・　２

・生活支援部

・福祉ホーム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

・デイセンター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

・自立体験室　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

・マイライフ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

・マイライフ西　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

・マイライフ刈谷　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

・マイライフ岩倉　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

・就労支援事業部

・わだちコンピュータハウス　・・・・・・・・・・・・・・・　１７

・ピア名古屋　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３

・小牧ワイナリー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８

・相談支援事業部

・昭和区障害者基幹相談支援センター　・・・・・・・　２９

・相談支援事業サマリアハウス　・・・・・・・・・・・・・　３１

・マイプラン・ケアマネジメントセンター　・・・　３３

・精神障害者支援事業部

・名古屋マック　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５

・社会啓発・社会貢献事業部

・アジア障害者支援プロジェクト　・・・・・・・・・・・　３７

・社会啓発・社会貢献室　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９

※補足すべき重要な事項はないので附属明細書は作成していません。

平成３０年度を振り返って

社会福祉法人 AJU 自立の家

常務理事 江 戸　 徹

平成の時代が終る時にＡＪＵ自立の家も大きな転換期となりました。

長年、アルコールリカバリー施設の必要性を求め施設建設の要望をし、平成 7 年度の当初予算に計上がされて以来 24 年に亘って 4 回予算化がされましたが、「地元住民の理解を得ることができない。」という理由で建設には至っていませんでした。

名古屋市では、「アルコール健康障害対策基本法」に基づき、中川区においてアルコール健康障害者が断酒を継続しながら、健康回復と社会復帰の支援を行う趣旨の障害者自立支援施設整備計画が公表され、ＡＪＵ自立の家が運営法人として承認をいただきました。昭和区での建築は叶いませんでしたが、中川区富永の地にて平成 31 年度に建築工事の着工が認められ、令和 2 年度から事業実施に向けて動き出しました。

また、法人化 30 周年の節目にあたり、これからのＡＪＵ自立の家としての想いや役割、活動方針等を纏めた「中長期計画 2019」を策定して、2019 年度～2028 年度を計画期間としています。この計画は、法人の将来を担うであろう障害当事者が中心となり、ＡＪＵ自立の家の理念に沿って、将来この法人が、「こうあってほしい。こういった事業展開が必要だ。」という視点から考えたものです。こういった障害当事者の意見を大切に、出来るところから一歩一歩取り組みを進めていくことが大切だと考えています。

一方、法人運営は、非常に厳しい状況であると言わざるを得ません。5 年間の目標である「組織改革と意識改革」を貫き、自立の家が将来にわたって、「社会で最も弱い立場の人を絶対的に支える」強い組織であり続けるには、法人運営の安定化が喫緊の課題となっています。2019 年度から 2021 年度の 3 年間で経営の安定化をはかるため、「ＡＪＵ自立の家経営健全化計画」を策定しました。

法人化とともに、30 年間、多くの障害者が地域で暮らすことができる支援を行ってまいりました。この想いは、ＡＪＵの使命であると考えています。そして、この想いが社会全体で共有できる社会の実現となるべき「ＡＪＵ自立の家経営健全化計画」を職員一丸となって取り組むことが、「中長期計画 2019」を実現するためには欠かせないものだと認識していきます。

そして、中川区の新施設が、知的障害者、精神障害者の地域移行に向けた支援を真摯に取り組み、誰もが差別を受けることなく地域社会の中で当たり前の生活ができるような取り組みを進めてまいります。

社会福祉法人ＡＪＵ自立の家　事業概要報告

１．事業の実施状況

(1) 経営施設ならびに定員

社会福祉法人ＡＪＵ自立の家では、第２種社会福祉事業として 18 事業、公益事業として 6 事業を経営しています。

法人事業以外の部分では、愛知県重度障害者の生活をよくする会、愛知県重度障害者団体連絡協議会、自立生活センター・生活塾をはじめとする障害者団体と協力し、ＡＪＵグループとして社会福祉の向上を進めています。

①第２種社会福祉事業　　平成 31 年４月１日現在

施設・事業所名	事業種類	定員	住　所
サマリアハウス	①障害者福祉ホーム ②障害福祉サービス事業（生活介護） ③障害者（児）相談支援事業	20 名 20 名 －	昭和区恵方町 2-15
わだちコンピュータハウス	④障害福祉サービス事業 （就労継続支援Ａ型、 就労継続支援Ｂ型、生活介護）	40 名	昭和区下構町 1-3
ピア名古屋	⑤障害福祉サービス事業（生活介護）	20 名	昭和区明月町 2-33-2
ピートハウス	⑥障害福祉サービス事業 （精神障害者グループホーム）	12 名	北区柳原 1-17-2 北区城見通 1-1
マイプラン・ ケアマネジメントセンター	⑦福祉サービス利用援助事業	－	昭和区松風町 2-28
障害者ヘルパーステーション マイライフ	⑧障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣） ⑨移動支援事業 ⑩老人居宅介護等事業	－	昭和区明月町 2-33-2
障害者ヘルパーステーション マイライフ西	⑪障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣） ⑫移動支援事業	－	西区南川町 92 若草マンション 1F
障害者ヘルパーステーション マイライフ刈谷	⑬障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣）	－	刈谷市幸町 2-7-14
昭和区障害者 基幹相談支援センター	⑭障害者相談支援事業	－	昭和区松風町 2-28
名古屋マック	⑮地域活動支援センター	20 名	北区金城 1-1-57
サポートＪ	⑯地域活動支援センター	10 名	昭和区松風町2-28
ＴＹＭルーム	⑰地域活動支援センター	15 名	北区柳原2-7-7
小牧ワイナリー	⑱障害福祉サービス （就労継続支援Ｂ型、生活介護）	40 名	小牧市野口大洞2325-2

②公益事業　　平成 31 年 4 月 1 日現在

施設・事業所名	事業種類	定員	住　所
障害者ヘルパーステーション マイライフ	①ホームヘルパー養成研修講座 （重度訪問介護従事者養成研修）	―	昭和区恵方町 2-15
マイプラン・ ケアマネジメントセンター	②居宅介護支援事業	―	昭和区明月町 2-33-2
わだちコンピュータハウス	③重度身体障害者リフトカー運行事業	―	昭和区下構町1-3
サマリアハウス	④高齢者世話付住宅（シルバーハウジング） 生活援助員派遣事業	24 世帯	昭和区恵方町
サマリアハウス	⑤名古屋市身体障害者自立生活体験事業	1 名	昭和区恵方町2-15
法人本部	⑥アジア障害者支援プロジェクト	―	昭和区恵方町2-15

福祉ホーム

Ⅰ．総括

今年度は 6 名の入居者がありました。入居者のうち生活保護施設からの入居者が 2 名おり、障害福祉以外の施設からの地域移行に果たす役割を担いました。同時に障害福祉の地域間格差があるなかで県外からの入居者や、医療機関から退院を迫られている方に対し、高齢者向けの入所施設を回避するために医療的ケアの依存が高い方でしたが、サマリアを経由して地域移行を目指す方などがいました。これまで以上にさまざまな分野の入所施設からの地域移行を受け止める器としての機能を果たすことができました。

ただし、今年度は 5 名の退居者があり、目標とする 16 名の入居者数の確保はできておらず、入所施設から抜け出たいという人たちの声なき声に、さらに応えることができるような事業の在り方を模索していく課題があります。

Ⅱ．事業の実施状況

１．目標達成のための具体的な行動

(1)「障害者の下宿屋」の理念継承

・「入居者の集い」は毎月開催され入居者だけでホーム内の企画やルールを話し合うなど当事者同士のコミュニケーションの場の確保を進めました。

(2) 多様化する障害への対応の充実

・入居者の半数以上は継続的にメンタルの面で医療を必要としている現状があります。また愛護手帳保持者も半数近くいます。身体含め 3 障害のそれぞれの当事者とのコミュニケーションの機会の確保を図るべく努めました。

(3) 入居者数 16 名/月の維持

・年度末で 13 名の入居者数で目標は未達成です。例年より多い入居者数でしたが今年度は退居者数も多く、昨年度比で 1 名増の 13 名でした。

２．建物の維持、計画的な改修について

・外壁や屋根の大規模修繕を実施しました。外壁はコンクリートの劣化が進行していましたが状態を改善し外観も整えることができました。

・屋根や 2 階と屋上の床面の防水工事も合わせて実施し、床面からの漏水の予防につなげ、特に電気系統のトラブル防止を図りました。

３．シルバーハウジング事業について

・サマリアハウスのスタッフとのコミュニケーションを密にし、日々の困りごとへの迅速な対応をはかり、また住人が知りたい情報をスムーズに提供できる体制をつくりました。

【今年度の入居者・・・６名】

氏　名	入居日	障　害	生活状況等
Y さん	6/1	脳性麻痺	三河エリアでの実家からの入居。
Y さん	6/22	脊椎損傷	救護施設からの入居。
S さん	7 /22	神経性の難病	九州地方からの入居。
M さん	8/1	脳性麻痺	県内の入所施設からの入居。
H さん	1/23	頸椎損傷	市内の療養型の病院からの入居。
I さん	3/29	下肢関節の疾患	無料低額宿泊所から緊急的に入居。

【今年度の退居者・・・５名】

氏　名	退居日	障　害	退居後の生活	入居期間
K さん	6/2	脳性麻痺	昭和区内の賃貸住宅での一人暮らしへ。	3年10カ月
U さん	6/6	筋ジス	昭和区内の賃貸住宅での一人暮らしへ。	3年8カ月
Y さん	10/31	脳性麻痺	大学進学のため愛知県美浜町での一人暮らしへ。	4年
S さん	12/17	神経性の難病	昭和区の賃貸住宅へ転居。	6カ月
Y さん	1/17	脳性麻痺	昭和区内のアパートへ転居。	3年10カ月

【入退居者年齢別内訳】

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合　計
入居者	0	0	2	4	0	0	0	6名
退居者	0	2	1	1	1	0	0	5名

【性別・就労形態別入居状況・・・31 年 3 月 31 日現在、13 世帯 13 名入居】

性　別	一般就労	福祉的就労	非就労	合　計
男性	0	2	6	8
女性	0	2	3	5
計	0	4	9	１３

Ⅲ．継続課題

(1) 多様な障害及び生活形態におかれている当事者への安心した自由のある生活支援

(2) ロールモデルとなる障害当事者スタッフの発掘と育成、及び四季自立体験プログラム実施体制の強化

(3) 入居者の増加及び維持に向け、四季自立体験プログラムや自立生活体験室など、若い障害当事者との接点を増やすために複数年計画を検討

デイセンター

Ⅰ．総括

新しいデイメンバー増員と共に、スタッフの増員もあいまってデイ活動の活発化につながりました。

しかしながら、デイメンバーの高齢化、身体状況の重度化、2 次障害によって活動内容、企画を主体的に発信、実践につなげる事に負担を感じているメンバーが多いため、スタッフサイドからやりたいこと、挑戦したことがないことの引き出し、選択肢を提示して自己選択、自己決定を元に、一緒に企画、活動を進めてきました。また、デイメンバーの高齢化だけでなくご家族の高齢化もあり、ご不幸が 3 件続き、親なき後の問題にメンバーと共にスタッフも取り組み始める機会となりました。

Ⅱ．事業の実施状況

１．目標達成のための具体的な行動

(1) 利用実績

【登録利用者数：29 人(男 10・女 19)／1 日平均利用者数：11.9／平均障害支援区分：5.3】

(2) 個別プログラムの充実

・家族と同居中の嚥下障害のある男性（30 代）から食に関しての要望があり、本人、家族、マイライフとの話し合いの場をもち、要望に添えるように食事支援のあり方を見直しました。(5 月)

・50 代女性の身体状況（全身疼痛、嚥下障害）の変化に伴い、コミュニケーション支援を兼ねた受診同行をし、本人への身体状況の説明をサポートするために医師と連携しました。(7 月)

・言語障害のある 30 代男性の体験室利用にむけて、スタッフと共に介助マニュアル作成に取り組みました。(8 月)

・地域移行された猫好きの 50 代女性の猫とふれあいたい意向をかなえるため、猫をかってみえる方に飼い猫とともにデイに来所していただき、ふれ合う機会をつくりました。(10 月～)

・パソコン習得を希望している 40 代女性に対して、習得をかねたデイ自主企画のちらしづくりや実施後のメモリアルポスターをスタッフと作成しました。(12 月)

・40 代女性の体調不安に対して適宜相談対応を行い、訪問看護の利用や通院同行で不安を解消する取り組みをしました。(2 月)

＜年間企画数＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
企画数(件)	7	7	7	6	12	6	11	9	10	11	13	14	113
参加延べ人数(人)	27	63	59	69	144	65	73	58	91	69	70	103	891

(3) 障害を活かした取り組み

・蟹江町の民生委員の見学対応にて、地域で生活してみえるデイメンバーが福祉ホーム、デイセンターの案内と共に、現在の生活や障害について話をしました。(4 月)

・新しい実習対応の取り組みとして、実習生と共にメンバー全員で楽しめる障害者スポーツ、レクリエーションをアレンジ考案して実践をしました。(6 月)

・美容学校の学生に対して、デイメンバーがヘア、メイク、ネイルのモデルとなり、障害者への

対応の仕方を学んでもらいました。(12 月)

・デイメンバーと来年度のデイ活動を盛り上げるための人材探しに、昭和区社会福祉協議会のボランティア連絡交流会に参加し、ハンドマッサージなどのボランティアグループに協力依頼の相談をしてきました。(2 月)

・ダスキンの研修生に対して、デイメンバーの体験を絡めながら、日本の障害福祉の現状について伝えました。(3 月)

・多くの学生・実習生の受け入れを実施し、車いす体験・お宅訪問・障害当事者としての経験や想いを話す機会を設け、また、車いす体験にかかわれるメンバーの開拓のため、体験コース（車いす体験講師向けマニュアル）づくりをはじめました。(通年)

【主な実習受け入れ先】

日本福祉大学中央福祉専門学校、愛知みずほ大学、名古屋市医師会看護専門学校、西陵高校、東海学園大学、名古屋大学、藤田保健衛生大学、名城大学、南山大学、南山中学、大谷高校、日総研、東海医療科学専門学校、CBC 美容専門学校

(4) 学べる環境づくり

・防災に関して、防災センターにグループ単位で出かけ防災意識を高めることや、非常食の試食を行いました。

・『自立生活プログラム』にて、担当メンバーが中心に毎月(月末の木曜日・金曜日)テーマを考えて、デイメンバーのみで話し合う機会を提供しました。

【主なテーマ】

「身体障害者あるある」「梅雨の時期の困りごと」「されて嬉しい事、嫌な事」「防災センターにいった感想」「平成のうちにやりたいこと」「生活で不便に感じること」「苦手克服方法」等

Ⅲ．継続課題

(1) 関係医療機関と連携した高齢化、重度化による支援内容の適宜見直しとスタッフの医療的ケアに関わるスキルアップ（各種資格取得、研修参加による）

(2) 親なき後の生活を見据えた生活を当事者が考える機会つくりと関係部署と連携した支援体制の構築

(3) 実習生、ボランティアとの関わりを通じた障害者としてのアイデンティティの確立と強みを生かした実習、見学対応プログラムなどのやれることづくりの開拓と人材育成、社会啓発、貢献

自立生活体験室

Ⅰ．総括

利用延日数、利用人員ともにここ数年で最多となりました。その内、4名の利用者が福祉ホームへ入居し自立生活へとつながりました。

新規利用者の発掘のための事業の普及啓発においては、愛知県の委託事業(地域生活チャレンジ事業)の周知に努め、愛知県内の入所施設を重点的に訪問、その結果5名の施設入所者に地域移行への「はじめの一歩」の体験の提供することができました。

利用者の増加に伴う介助者の不足の深刻化、及びグループホーム入居者、入院患者の利用財源の欠如が今後の課題です。

Ⅱ．事業の実施状況

１．目標達成のための具体的な行動

(1) 施設、親元からの自立生活を目指す、第一歩となる体験の場作り

・体験室のミーティングを週に一回実施、必要に応じてホーム入居者に参加を依頼し、より効果的なプログラムづくりや事業説明となるよう検討しました。

・病院から利用の制限が設けられる中、入院患者に対して一泊二日の体験室を5回提供しました。

(2) 関係機関への訪問による本事業の必要性と重要性の普及啓発

・愛知県より受託し、地域生活チャレンジ事業「はじめの一歩」を実施、入所者 5 名の参加があり、一泊二日(3回)、二泊三日(2回)の体験プログラムを提供しました。

・入所施設、基幹相談支援センター、病院など延43回訪問し、普及啓発に努めました。

・障害のある高校生を対象とした自立生活体験プログラムを夏季、冬季、春季の3回実施、延9名の参加がありました。

(3) 名古屋市・愛知県第5期障害福祉計画に基づく地域移行の実現

・今年度の稼働日は261日(昨年度2,113日)でした。利用人員は25人(昨年度13名)、うち新規では18名(在宅10名、施設6名、グループホーム2名)と多くの利用がありました。

区分	実人員			小計	実施日数			小計	実施件数			小計
	市内	県内	県外		市内	県内	県外		市内	県内	県外	
在宅	6	5	5	16	70	26	100	131	10	11	9	30
施設入所	4	4	1	9	55	10	0	65	10	4	0	14
計	10	9	6	25	125	36	100	261	20	15	9	44

Ⅲ．継続課題

(1)グループホーム入居者、入院患者など利用に対する財源の確保

(2)県内入所施設等を中心に計画的、断続的な情宣活動

(3)介助者の新規発掘及び法人内での協力体制の確立

マイライフ

Ⅰ．総括

高齢化による障害の進行が顕著に現れ、手術を余儀なくされる方、また、進行性の障害がある女性の出産に対する支援等、きめ細かい対応が求められました。入院時にもヘルパー派遣が行えるようになった新たな制度を活用し体制を整えました。生命に直結する予断を許さない状況の方もみえましたが、予後も無事に過ごされています。

大学入学を目指しサマリアハウスを退居された方へ、転居先の事業所と連携し新生活づくりを行いました。また、主管行政との交渉が進まず地域移行が先送りにされていた方のサマリアハウス入居が急遽決まり、本人の希望する 4 月入居を目指してサマリアハウスと協同し体制づくりを始めました。

人材確保に於いては総じて苦戦を強いられ男女ともに新規登録者は昨年度より減少しました。情報発信ツール（SNS）を発展的に活用し、イベント情報や活動風景などを積極的に発信しましたがフォロワー数の増加などに課題を残す結果となりました。

共生型サービスを予定通り 7 月 1 日より開始し、移行前と同様の生活を送られています。

Ⅱ．事業の実施状況

１．目標達成のための具体的な行動

(1)チーム体制の再構築と強化、及び利用者の多様化するニーズへの対応

・女性チームを 3 グループに分け担当利用者の情報を共有し、意見交換を行いながら新たな視点で話し合いを進めました。また、新年度異動予定者を視野に入れ改めてチーム再編も行いました。

・身体状況の大きな変化により男性利用者 2 名、女性利用者 1 名が手術をされ、本人の意向と手術後の ADL を把握しながら体制を整えました。

(2)共生型サービス開始による高齢者・障害者の一体的な支援体制づくり

・7 月 1 日からサービスを開始し、障害福祉サービスから介護保険へ移行した 65 歳男性の方へ、既存のヘルパー14 名が変わりなく派遣にあたっています。

・平成 31 年度当初に介護保険へ移行が予定されている利用者 2 名の方の支援体制について、介護保険と支援法の割合を勘案して、ヘルパーの割り振り等、シミュレーションを行いました。

(3)人材確保・育成における女性ヘルパー確保にむけた新たな取り組み

・初任者研修養成校と関係を作り、講義の中でＡＪＵ自立の家やマイライフの取り組みを説明し、初任者研修修了後、新規登録へ繋げました。（男性 2 名・女性 1 名）

・インスタグラムアカウントを開設し、利用者、ヘルパー、学生を集めた運動会・BBQ 開催、お花見を企画する等、イベント情報の発信や活動模様をアップしました。また、ヘルパー募集チラシを両面カラーでより効果的な内容にリニューアルし、次年度のイベント企画の周知に活用しました。

２．養成・研修、その他

○重度訪問介護従業者養成講座

・開講数10回　受講者数90名（登録者数49名　内訳男性16名・女性33名）

○マイライフオリエンテーション（4事業所共通）

・受講者数124名　随時、新情報を盛り込み講座を開講しています。

○名古屋市委託事業現任研修（精神障害の理解）

・10 月 6・13・20 日の講義と施設実習 1 日/人の計 4 日間で開催　受講者数 15 名。

・近年、受講生数の伸び悩みが課題であり、更に効果を期待できる改善策を練る必要があります。講師は、例年依頼している当該分野で活躍されている方、精神科病棟のソーシャルワーカーには、地域医療との連携の具体的な取り組みについて講話いただきました。

○年間研修

・開講数57回（新規講座4回）受講者数 のべ613名（4 事業所共通）

・新規講座として「身近な社会資源」を実施。受講生へのアンケートから要望の多かった「福祉制度」についての講座を組み立てました。また「食生活の大切さ」では、栄養の基礎知識を通して食事の大切さを伝え、そこからヘルパーとして何ができるかを考える講座を企画しました。

【派遣時間数推移】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
29 年度	16,863.3	16,992.8	16,786.5	17,074.3	17,082.5	16,645.5	
30 年度	16,973.3	17,149.0	16,561.0	17,279.0	17,157.5	16,560.0	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
29 年度	17,130.8	16,857.0	17,132.5	16,769.0	15,571.3	17,135.8	202,041.3
30 年度	17,383.3	16,366.5	16,915.3	16,532.8	15,411.5	17,149.3	201,438.5

【30 年度共生型サービス派遣時間数】 ＜　7 月より 3 月までの合計 842.5 時間　＞
＜利用者数・要介護者 4 名、要支援者 1 名＞

【サービス別派遣時間割合】

	居宅	移動	重訪
29 年度	5.7%	1.5%	92.8%
30 年度	5.0%	1.5%	93.5%

【利用者数】

	合計	内訳
29 年度	127 名	男性　74 名　女性　53 名
30 年度	120 名	男性　65 名　女性　55 名

【登録ヘルパー数】　（　）内は新規登録者数

	合計	内訳
29 年度	391 名	男性　169 名（48 名）　女性　222 名（56 名）
30 年度	348 名	男性　136 名（19 名）　女性　212 名（52 名）

※数字は＜平成 31 年 3 月末現在＞

Ⅲ．継続課題

(1) 新規地域移行希望者への対応

(2) 障害の重度化に伴う医療的ケアが必要とされる方への対応

(3) 新たな人材確保・育成方法

マイライフ西

Ⅰ．総括

自立生活センター生活塾と連携し、施設、グループホーム利用者や特別支援学校の生徒を対象に、地域移行を目的とした支援としてピアカウンセリングや自立生活プログラムを行いました。サマリアハウスの自立生活体験室の段階的利用も視野に、長期的な支援計画を立て実行しています。

関係機関、他職種とも密にケース会議、情報共有の場を持ち、介助スタッフ（職員、登録ヘルパーなど）に情報提供を行い、ご本人にあった支援体制の充実に努めました。

Ⅱ．事業の実施状況

１．目標達成のための具体的な行動

(1)自立生活実現に向けた支援の確保

・重点校である淑徳大学、同朋大学への授業アピール及びサークル、ボランティアセンターなど、定期的な訪問を行い、各大学、専門学校にもアプローチに努めました。

授業アピール：淑徳大学 2回　同朋大学 3回

学校訪問（関連機関、サークルなど）：淑徳大学 5回　同朋大学 5回

・介助者の確保のため、生活塾で開催されるボランティア説明会の手伝いやチラシ配りを定期的に行いました。

ボランティア説明会：3回　　チラシ配り：7回　　※イベント参加者あり

(2)障害者へのエンパワメントときっかけ作り

・生活塾と協同で行った勉強会や交流会の企画では、昨年からつながりのできた方、新規で参加される方が多数みられ、現在自立生活に興味がある方を含め、先輩当事者との交流の場を設けることができました。

勉強会：5回（CIL 星空 当事者スタッフ講演会、総合防災訓練、ボランティア説明会等）

交流会：12回（当事者が主体となる企画を実施）

スタッフを含め当事者の参加：1回につき 10名　　新規参加者：述べ6名

・地域で自立生活を目指す、施設利用者及びグループホーム入居者（3名）に対し、個別支援（ピアカウンセリング、自立生活プログラム、制度利用支援など）を行いました。また、サマリアハウス、車いすセンターとも調整の上、東海北陸バリアフリー市民集会 in 福井に参加、自立生活体験室などの利用促進にも努めました。

訪問、来所：40回　　自立生活体験室対応：3回

(3)利用者中心の支援体制と協力体制の構築

・利用者ごとの障害進行状況や生活環境の変化について、行政、相談支援センター、訪問看護他事業所とのケース会議を持つなど、関係機関と連携し支援体制の強化に努めました。

利用者ミーティング：月1回　　ケース会議：のべ 40回

・西区自立支援連絡協議会には事業所部会、防災部会に参加、世話人として、障害当事者の生の声をできるだけ反映できるよう努めました。

２.養成・研修、その他

○重度訪問介護従業者養成講座

・開講数 3 回/年（8 月、11 月、2 月）　受講者数：25 名（マイライフ西 登録者数：10 名）

・受講生：男性の受講者及び登録者数が少ない傾向がありました。（登録者数：3 名）

・講師：講師のアシスタントを務める当事者養成を行い、それぞれ力をつけています。

【派遣時間数推移】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
29 年度	2,780.5	3,039.5	2,863.0	2,766.5	2,782.5	2,787.0	
30 年度	2,758.5	2,717.0	2,724.5	2,687.0	2,651.8	2,561.0	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
29 年度	2,573.0	2,616.0	2,606.0	2,506.5	1,868.0	2,132.0	31,320.5
30 年度	2,085.5	2,640.5	2,795.0	2,773.5	2,617.0	2,822.0	31,833.3

【サービス別派遣時間割合】

	居宅	移動	重訪
29 年度	2.2%	2.8%	95.0%
30 年度	2.5%	3.0%	94.5%

【利用者数】

	合計	内訳
29 年度	32 名	男性　17 名　女性　15 名
30 年度	29 名	男性　16 名　女性　13 名

【登録ヘルパー数】　（　）内は新規登録者数

	合計	内訳
29 年度	101 名	男性　70 名（19 名）　女性　31 名（17 名）
30 年度	102 名	男性　57 名（9 名）　女性　45 名（21 名）

Ⅲ．継続課題

(1) 人材の確保及び体制を構築（地域移行者を対象とするきっかけ作りなど、生活塾との連携）

(2) 声なき声に耳を傾ける事が出来るスタッフ、支援者の確保

(3) 医療的ケアが必要な利用者への体制作り

マイライフ刈谷

Ⅰ．総括

今年度、マイライフ刈谷は設立から 10 年という節目の年を迎えることができました。9 月 22 日に設立 10 周年記念パーティーを開催し、これまでお世話になった地域の皆様や利用者のご家族、介助者やボランティアの皆様に感謝を伝える機会とすることができました。

地域移行支援においても親元で暮らしていた方が 6 月よりサマリハウスでの自立生活を始めることができました。また、来年度 4 月にサマリアハウスを退居し、刈谷市にて自立生活を始める方もいます。少しずつではありますが三河地域での自立生活運動を前進させることができました。

来年度は三河自立サポートグループアクセルとの連携をさらに強化し、新たな地域移行者を探していきます。

Ⅱ．事業の実施状況

１．目標達成のための具体的な行動

(1) 地域移行する障害当事者の発掘及び利用者のエンパワメント

・三河自立サポートグループアクセルが刈谷市で初の「自立生活プログラム」を開催しました。それに伴い、三河地域の福祉事業所へ周知活動を行ったことで、自立生活について理解を広げる機会となりました。

・サマリアハウスへ入居した方 1 名、サマリアハウスを退居後、刈谷市で自立生活を始めた方 1 名について、それぞれ支援しました。

(2) 行政や地域との繋がりを強化

・刈谷市での自立支援連絡協議会、福祉実践教室に関わるという目標に対しては、十分に動くことができませんでした。しかし、設立 10 周年記念パーティーを通して関わっていただいている方々へ感謝を伝えたり、刈谷市特別支援学校との新たな繋がりができたりと、地域との関わりを強化することができました。

(3) 三河地域での自立生活体験室の検討

・三河地域の自立生活体験室創設を具体化するため、今後も継続して話し合いを行います。

２．養成・研修、その他

○重度訪問介護従業者養成講座（刈谷）

・開講数 4 回/年　　受講者数　19 名　（内登録者数　15 名）

・日程が合わず昭和区の会場を紹介した学生が多くいたため、来年度は日程を工夫します。

・当事者職員が講師として講義を担えるよう研修します。三河自立サポートグループアクセルの障害当事者を中心にアシスタントを養成します。

【派遣時間数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
29年度	2,770.0	2,915.0	2,737.5	2,745.0	2,482.5	2,602.0	
30年度	2,733.0	2,809.0	3,341.5	3,497.5	3,492.0	3,283.0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29年度	2,693.5	2,697.0	2,767.0	2,761.5	2,514.0	2,734.5	32,419.5
30年度	3,452.5	3,351.0	3,433.5	3,316.5	3,111.0	3,448.0	39,268.5

【サービス別派遣時間割合】

	居宅	移動	重訪
29年度	0.9%	0.0%	99.1%
30年度	0.5%	0.0%	99.5%

【利用者数】

	合計	内訳
29年度	9名	男性　5名　女性　4名
30年度	9名	男性　5名　女性　4名

【登録ヘルパー数】　（　）内は新規登録者数

	合計	内訳
29年度	133名	男性　71名（16名）　女性　62名（16名）
30年度	136名	男性　83名（21名）　女性　53名（19名）

Ⅲ．継続課題

(1) 三河自立サポートグループアクセルとの連携による地域移行する障害当事者の発掘

(2) 登録ヘルパーの特長を生かした利用者の支援体制の安定化

(3) 三河地域における生活介護事業所と自立生活体験室の新規事業としての検討

マイライフ岩倉

◆障害者ヘルパーステーション

Ⅰ．総括

マイライフ岩倉は 8 年半の活動を経て閉所する事としました。尾張小牧地区において自立生活を希望する当事者も継続的な支援には繋がりませんでしたが、開所当時にはなかった社会資源が整備され、当事者発掘や支援にあたる関係者との関わりの中で自立支援の理念が広がりました。

閉所にあたり、利用者はマイライフとマイライフ西を含め、ご家族や相談支援専門員と協力しながら他事業所への移行を進めました。

福祉実践教室（車いす体験）においては生活塾へ引継ぎ、継続して実施する体制を作りました。

Ⅱ．事業の実施状況

１．目標達成のための具体的な行動

(1) マイライフ西との継続した合同ミーティングの実施

・毎月１回の継続したミーティングにより進捗と課題を共有することで、複数の事業所が統一した支援を行う事ができました。

(2)当事者リーダーの発掘と福祉実践教室を通した当事者の育成

・利用者が福祉実践教室の講師を担ったことで「私のやりがいができた」との感想があり、意欲向上が図れました。

(3)近隣大学等へ授業アピール実施と地域イベントでの介助者募集チラシ配布

・年４回の学生交流会を開催し５名の登録につなげることが出来ました。様々な当事者が参加することにより、自身の介助者を探すマッチングの場を提供できました。

授業アピール 6 回、大学訪問 7 回、チラシ配り 4 回実施

２．養成・研修、その他

・岩倉市福祉実践教室（車いす）＜延べ 11 回実施＞

・学生交流会＜5 回（延べ 66 名参加）＞

・卒業生を祝う会開催＜2/23　4 名参加＞

【派遣時間数推移】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
29 年度	379.5	395.0	395.0	352.5	372.0	403.0	
30 年度	367.0	463.5	551.5	456.5	507.5	494.5	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
29 年度	412.5	502.0	512.5	303.5	325.5	454.5	4,807.5
30 年度	527.0	558.0	450.5	428.5	391.0	361.5	5,557.0

【サービス別派遣時間割合】

	居宅	移動	重訪
29 年度	14.4%	7.9%	77.8%
30 年度	16.0%	8.6%	75.4%

【利用者数】

	合計	内訳
29 年度	25 名	男性　18 名　女性　7 名
30 年度	15 名	男性　11 名　女性　4 名

【登録ヘルパー数】　（　）内は新規登録者数

	合計	内訳
29 年度	32 名	男性　12 名（2 名）　女性　20 名（4 名）
30 年度	30 名	男性　11 名（1 名）　女性　19 名（6 名）

◆地域活動支援センター

Ⅰ．総括

新たな取り組みとして、5 月より 1 名の重症心身障害児を受け入れ、支援を行ってきました。遊びを通した支援を行う中で、既存の成人と児童が同じ時間と場所を共有し、岩倉市役所で開催される「みんなの願い展」では、全員で 1 つの作品を作り上げる事ができました。

成人利用者 1 名に福祉実践教室の講師をお願いし、3 回参加していただきました。本人から「こんな楽しいなら、もっと早くやりたかった」と、QOL 向上につながる言葉がありました。

Ⅱ．事業の実施状況

１．目標達成のための具体的な行動

(1) 障害特性を勘案した進学等に伴う生活ステージのスムーズな移行

・「個別計画、支援」に重点を置き、障害特性に合わせた関わり方を意識しました。自身で外出の時間管理ができるようになるなど、成果が見られました。

・児童からの希望による取り組みを、延べ 27 回（内、外出を伴う取り組みは 12 回）行いました。みんなの願い展では、児童が作成した作品が展示されました。

(2)居宅介護や移動支援では充足できない支援の補完的な提供

・地域生活支援事業と障害福祉サービスの横断的な組み合わせにより、シームレスな支援を提供することで、QOL を落とさない支援に繋げることができました。

(3)地域での自立生活に向けた「はじめの一歩」の場の提供と利用者の発掘

・岩倉市役所、岩倉市相談支援専門員と協力しながら対象者を探しましたが、対象者にたどり着くことができず、成果に繋がりませんでした。

【年間利用回数（延べ）推移】

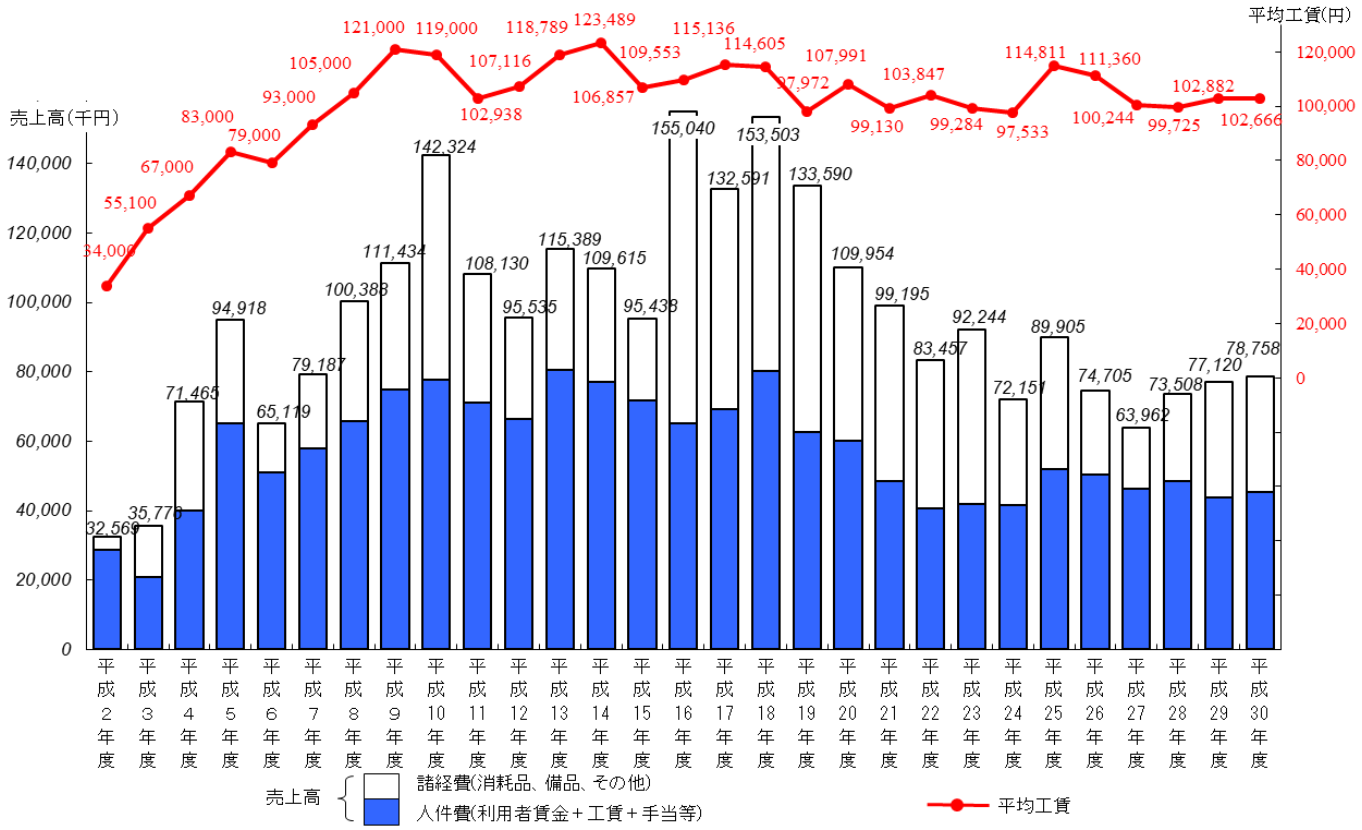
平成 29 年度：445 回、平成 30 年度：299 回

わだちコンピュータハウス

Ⅰ．総括

１．売上高と平均工賃

平成30年度の売上高は7,876万円でした。売上目標6,480万円を1,300万円余り上回りました。
平均工賃は102,666円でした。



事業部ごとの売上高は、ユニバーサルサービス事業部5,138万円、IT事業部2,738万円で、両事業部ともに目標を大きく上回りました。

事業部	売上高(千円)	目標額(千円)	
ユニバーサル サービス事業部	51,380	47,200	①コンサルティンググループ ②入力・集計グループ ③企画・運営・講師派遣グループ ④防災企画グループ ⑤編集・デザイングループ ⑥印刷・発送グループ ⑦リフトカー事業グループ
ＩＴ事業部	27,378	17,600	⑧システム開発グループ ⑨ＷＥＢデザイングループ ⑩ＩＴサポートグループ
合　計	78,758	64,800	

２．人員の推移

●6 月 1 日付で男性所員１名が入所、7 月 9 日付で男性所員１名が入所、2 月 6 日付で女性所員１名が入所しました。

●6 月 30 日付でわだち作業所時代開所当初からの男性所員 1 名、2 月 28 日付でわだちコンピュータハウス開所当初からの女性所員１名が退所しました。また 12 月に男性所員 1 名が急逝しました。

表 1　所員の人員構成　　平成 31 年 3 月 31 日現在

▼性別年齢構成　平均48.1歳

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
男性	4	3	5	6	5	1	24	48.0
女性	1	2		4	1	1	9	48.4
合計	5	5	5	10	6	2	33	48.1

▼居住地構成

名古屋市	23
愛知県	8
岐阜県	0
三重県	1
その他	1
合　計	33

▼障害別等級構成

	1級	2級	3級	5級	なし	合計
視覚障害	1			1		2
聴覚障害	1					1
肢体不自由	15	10				25
内部障害	1					1
精神障害		1	2		1	4
合計	18	11	2	1	1	33

▼事業別利用期間構成

	１年未満	３年未満	５年未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	25年以上	合計
就労継続支援Ａ型			2	1	1	2	2	1	9
就労継続支援Ｂ型	2	3	3	4	1		2	2	17
生活介護	1	1		1		1		3	7
合計	3	4	5	6	2	3	4	6	33

３．目標（本年度重点項目）に対する総括

目標（本年度重点項目）	総括
①施設会計および授産会計の持続可能な安定した経営	▶ 新たな仲間を 3 名迎え、世代交代を図った。 ▶ 所員、職員一丸となって目標以上の業務を受注し、売上目標を上回った。
②ユニバーサルデザイン業務の推進	▶ 名古屋駅乗換空間 UD 検討業務は継続受注(3 年目)し、無事完了した。 ▶ 名古屋城バリアフリー検証業務を新たに受注した。
③事業継続計画（ＢＣＰ）の策定と具体策の実施	▶ 事業継続計画（ＢＣＰ）の初版を策定した。 ▶ 名古屋市および豊田市の福祉事業所向けセミナーを受注、それぞれ２月に開催した。
④施設および業務インフラの整備	▶ 建物外壁補修工事を実施した。 ▶ オンデマンド印刷機の整備を年賀寄附金に助成申請したが、不採用だった。 ▶ 火災や大地震による社屋の倒壊等による滅失に備え、わだちおよびＡＪＵグループ全体の業務データ（電子情報）の遠隔バックアップの仕組みを構築中。

目標（本年度重点項目）	総括
⑤コスト感覚とチェック体制の確立	▶見積提案、契約、仕入、出張等についてはチェックが浸透。 ▶業務単位での直接経費、間接経費、費用対効果の把握が課題。
⑥営業体制の刷新	▶新しい業務の柱の開発が継続課題。
⑦人材育成とスキルアップ	▶負荷分散と世代交代が引き続きの課題である中、所員、職員ともに戦力不足があり、引き続きの課題。

Ⅱ．事業の実施状況

１．ユニバーサルサービス事業部

コンサルティング、入力・集計、防災企画、印刷・発送、リフトカー事業の各グループについては売り上げ目標額を達成または上回ることができ、企画・運営・講師派遣、編集・デザインの各グループは、売り上げ目標額を下回りました。全体の売り上げとしては、目標額を達成または上回りました。

また、障害者計画策定業務、ユニバーサルデザイン対応業務及び研修委託業務においては、昨年度に比べ多くの業務を受注することができました。

(1) コンサルティンググループ

行政計画策定業務は、当初の計画よりも増え、1 市 1 町で 3 つの計画を行いました。また、ユニバーサルデザイン、バリアフリー関連業務は昨年度に引き続き、名古屋駅乗り換え空間のユニバーサルデザイン対応方策検討業務を行い、新たに名古屋城周辺のバリアフリー調査業務を行いました。

売上については、ほぼ目標額に達成しました。

(2) 入力・集計グループ

自立の家内の他部署との情報交換強化による新規業務獲得には至りませんでしたが、営業活動や既存の顧客の繋がりからアンケート業務を受注しました。業務の平準化や効率アップを目指すため、集計業務の知識を共有しました。

また、テープ起こし業務については多くの受注ができ、チーム内で協力し、業務を遂行しました。

売り上げ目標額は達成できました。

(3) 企画・運営・講師派遣グループ

既存の企業・行政向け研修を受注しました。自動車販売店向け研修会の内容変更により、受注件数は従来通りでしたが、売り上げ目標を達成できませんでした。人員減により、新規開拓には至りませんでした。

また、イベント補助業務に関しては、従来通り受注できました。

(4) 防災企画グループ

災害用間仕切りセットについては、ＨＰのみの案内で問い合わせもありましたが、受注には至りませんでした。防災備品（避難システム保守）は契約変更のため減額となりましたが、災害時要援護者支援事業については、新たに１市より受注でき、売り上げ目標額を達成しました。

(5) 編集・デザイングループ

既存の顧客から継続して業務を受注することができました。ホームページチームと連携して、経験のある人と作業に取り組みました。仕様により内部での対応が難しい受注に関しては、外部に委託をしました。売上については目標額には達成できませんでした。

(6) 印刷・発送グループ

印刷発送ともに作業を順調に進めることができ、成果物を確実に顧客に納品することができました。

発送印刷作業が混雑しているときには、経験者に習いながら未経験の人とともに業務に取り組みました。

作業員を増員し、順調に進めることができたことにより売上目標額に達成することができました。

(7) リフトカー事業グループ

担当者が 1 名増え、情報共有をし、電話応対に留意しました。５台の車の運行スケジュールを効率よく組むことができ、業務を遂行することができました。

２．ＩＴ事業部

ＩＴ事業部全体の売上高は 2,738 万円で、売上目標の 1，800 万円を大きく上回り、好調を維持することができました。

重点課題とその総括

重点課題	総括
(1) システム開発では、わだち内、ＡＪＵ内のシステム環境のメンテナンスに注力する	▸ 年間売上高 518 万円／売上目標 500 万円 ▸ メンバーが重度・加齢・不足など深刻化していく中、適材適所の役割分担と補完しあえる体制作りができた。 ▸ 開発部門のメンバーの体調状況と技術力不足と人材不足が否めず、将来的には既存顧客システムを別の開発環境への移行、他の業者に引き継ぎもしくは外注委託する等の選択肢が考えられる。
(2) Web デザインでは、Web アクセシビリティ対応や、レスポンシブ Web デザイン対応の強みを活かして、顧客ニーズに応える。	▸ 年間売上高 1831 万円／売上目標 1000 万円 ▸ こころの絆創膏ホームページリニューアル、小牧ワイナリーホームページ新規作成した。 ▸ トヨタ救急車ホームページのリニューアルも受注した。作業は次年度に持ち越した。 ▸ 名古屋市関係のサイトは平成 30 年度末までに JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠することが必要になるため、アクセシビリティについて検討と修正を行いました。

(3) IT サポートでは、新たなパソコン動作環境や、スマートフォンやタブレットなど情報機器の利活用に対するニーズに当事者目線で応える。	▶年間売上高 389 万円／売上目標 260 万円 ▶パソコンのメンテナンスについては、一般業者と比べて低価格でパソコンの修理やデータ復旧の対応を行い、高い顧客満足度を得られた。 ▶サーバの大幅な入れ替えを行い、ソフトウェアの動作検証が容易にできる環境を整えました。これにより作業効率が上がり、サーバの安定稼働にもつながった。

(1) システム開発グループ

今年度は既存システムの年間契約が主で、売上高が 518 万円に留まりました。チームメンバーが重度・加齢・不足など深刻化していく中、限られた人材の中で適材適所の役割分担と補完しあえる体制作りができました。

今年度システム開発関係の業務については、わだち業務管理システムの改良や既存顧客向けシステムの新元号対応への改良とその準備などを行いました。

既存顧客向けシステムとそのＰＣ環境に関する問い合わせがありましたが、売上には上がらないケースが多数ありましたので、問い合わせを有料化する検討をする必要があります。

長年、システム開発部門の中心となっていた所員が退職してアルバイトに変わり、残された開発部門のメンバーと連携し、既存顧客向けシステムを動かすためのＰＣ環境設定作業は、ＩＴサポートチームと協力しながら進めていくようになりました。

しかしながら、残された開発部門のメンバーの体調状況と技術力不足と人材不足が否めません。

将来的には既存顧客システムを別の開発環境への移行、他の業者に引き継ぎもしくは外注委託する等の選択肢があると思います。

▼主な業務内容（顧客）

●愛知県住宅計画課／全日本写真連盟／中部善意銀行／ＡＪＵ法人本部／障害者ヘルパーステーション・マイライフ／ＡＪＵ後援会／ＡＪＵ車いすセンター／わだち業務管理システム

(2) WEB デザイングループ

今年度 Web デザイン部門の売上は 18,311,290 円でした。

今年度はこころの絆創膏ホームページリニューアル、小牧ワイナリーホームページ新規作成をしました。これらのサイトは WordPress で構築し、レスポンシブ Web デザイン、JIS 規格の AA 準拠のサイトとなります。

トヨタ救急車ホームページのリニューアルも受注しました。今年度契約しましたが、作業自体は次年度にまたいで行います。

全体として目標金額以上の売り上げとなりました。

引き続き、現行ホームページの更新業務、サーバ保守管理を行いました。

◆今後の課題

- WordPress やレスポンシブ Web デザイン、JIS 規格の AA 準拠の 3 点セットをお客様にお勧めしました。それに伴い、WordPress や JIS 規格の学習を行っていきます。
- デザインについては、毎月外部から講師を招いて講習会を行い、デザイン力の向上や Web 業界最新トレンドの学習を行いました。
- 情報セキュリティへの対応も求められていて、情報処理安全確保支援士の有資格者を中心

に、情報セキュリティポリシーの策定など、情報セキュリティ対策を行っていきます。

・ 名古屋市関係のサイトは平成 30 年度末までに JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠することが必要になるため、アクセシビリティについて検討と修正を行いました。

◆主な業務内容（顧客）

名古屋市子育て支援課（専用サーバ保守管理含む)、名古屋市健康増進課、名古屋市障害企画課、名古屋陽子線治療センター、名古屋市寿荘、名古屋市健康増進課パンフレット、名古屋市緑区役所パンフレット、愛知県社会福祉協議会、愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター、愛知県福祉サービス第三者評価推進センター、愛知県子ども会連絡協議会、愛知県老人クラブ連合会、名古屋市社会福祉協議会、タイホウグループ、トヨタ救急車、豊秋奨学会、愛知難病救済基金、愛知難病団体連合会、はっとり歯科クリニック、名古屋緑断酒新生会、中部善意銀行、ぷらっとほーむ、昭和区障害者自立支援連絡協議会、栄光社、小牧ワイナリー、AJU 自立の家ホームページ保守管理、AJU 季刊誌編集・チラシ作成・パンフレット作成、名古屋シティハンディマラソン実行委員会　等

(3) ＩＴサポートグループ

今年度もパソコンと周辺機器の購入前相談や購入後の環境設定ならびに、年 6 回の一斉講習・個別講習を実施しました。また日常生活用具給付制度によるパソコン購入やパソコン本体及び周辺機器の購入相談が昨年度より減少しました。そのために前年度比－約 50 万と売上は若干低調でした。しかし、価格改定したことにより売上単価は上がりました。

障害当事者が対応することで、相談者や受講者の障害特性や生活状況等を考慮することを大切にし、より重度な障害者の視点に沿った支援をすることができました。パソコン講習では基本操作の他に、はがきの作成など受講生個別の要望に合わせた一斉講習を行いました。パソコンのメンテナンスについては、一般業者と比べて低価格でパソコンの修理やデータ復旧の対応を行い、高い顧客満足度を得られたと思います。

また、わだち内部で使用するパソコンのメンテナンスを随時行いました。具体的にはハードディスクの交換やメモリ増設、OS のクリーンインストールを実施しました。さらに、サーバの大幅な入れ替えを行い、ソフトウェアの動作検証が容易にできる環境を整えました。これにより作業効率が上がり、サーバの安定稼働にもつながったと思います。

Windows10 ならびに Office2019 の操作方法やノウハウの習得、講師及び相談員の IT スキルアップと人材確保の課題は依然として残っています。

◆主な業務内容

障害者 IT 総合推進事業	1,224,000 円
IT 講習会受講料	89,500 円
日常生活用具給付及び機器購入・サポート	2,574,646 円
合　計	3,888,146 円

ピア名古屋

＜30 年度事業方針＞

自分らしく暮らすための総合的な支援。

Ⅰ．総括

4 月に特別支援学校卒業生 1 名が新規利用を開始し、計 13 名の仲間と事業を行いました。

事業方針であった①「就労支援・生活支援の両立」のため個々のニーズを細かく把握し、職員の役割を明確化しました。②「仲間の作業再構築、業務の効率化」のため、個別支援計画を基に障害特性、個々の能力を最大限生かす作業を考慮し事業を行いました。③「売上目標」は職員体制の変化があり、体制を整えながらの販売事業でした。売上目標に 98%でありました。

Ⅱ．事業の実施状況

1．利用者数　　平成 31 年 3 月 31 日現在

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	
男性	4	4	3	0	11
女性	1	0	1	0	2
合計	5	4	4	0	13

・入所：男性 1 名（4 月）

・のべ利用者数、2,112 人（開所日数　　275 日）

2．目標（本年度重点項目）に対する総括

(1) 就労支援、生活支援の両立

身体面の障害重度化のため介助量増加、発達障害がある仲間への対応など、支援ニーズが増大しています。そのため、「働く場所」としてのピア名古屋の役割と「必要な生活支援の場所」としての両面のニーズがあります。MDS 活用、会議内容の共有、他部署との連携等により支援内容の「視える化」を行い、スタッフが必要な支援を必要な仲間に対して行える体制を整えました。

(2) 仲間の作業再構築、業務の効率化

仲間のニーズ・特性・障害状況が変化していく中、仲間と話し合いを重ねながら適切な作業内容・時間・手順を決めました。当初は慣れないため、不安な面もありましたが売上につながる動きができるまでになった部分もありました。

(3) 売上

年度途中で職員体制の変化があり、支援体制を整えながらの販売事業になりました。

電動車いす８台、手動車いす１７台の売り上げをはじめ、名古屋市災害備蓄用紙おむつ受注、イベントのつながりから車両メーカーの車いす受注・売上がありました。

電動車いす用のリチウムイオンが補助金制度になったことを受け、AJU 内外の顧客に仲間が中心となって営業を行い、売上増につながりました。

年間売上高は 39,252 千円で、売上目標 40,000 千円に対して、達成率 98%となりました。

売上高の内訳

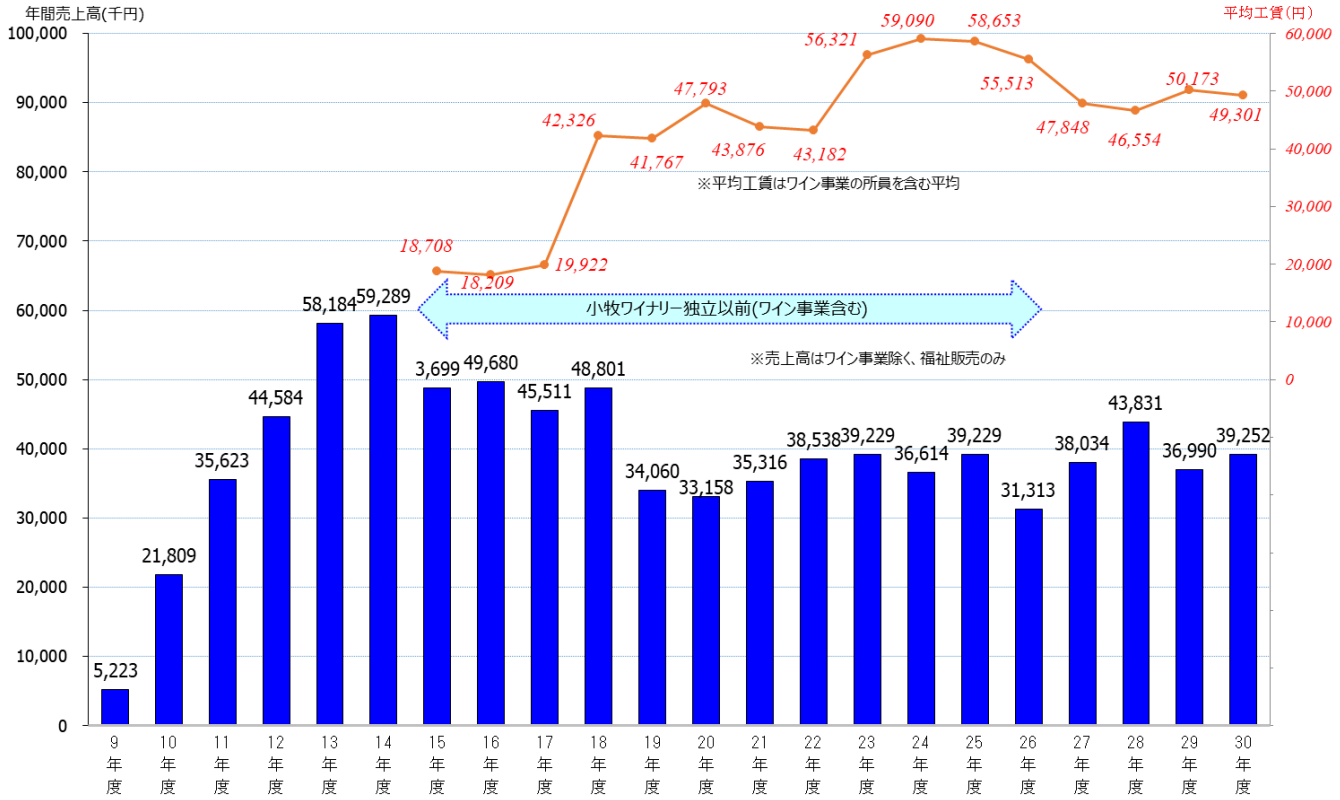
品目	売上金額
補装具購入	8,737,765 円
補装具修理	13,788,993 円
入浴用具	1,180,440 円
移動支援（スロープ・手すりなど）	784,660 円
排泄管理支援（紙おむつなど）	2,775,479 円
IT 関連（トーキングエイド）	695,740 円
日常生活用具　高齢者その他	19,000 円
特殊寝台貸与	2,669,213 円
移動機器	3,673,772 円
生活補助用具	689,898 円
防災用具	987,496 円
他施設関連用具	3,249,496 円
合計	39,251,952 円

30 年度総売上額　39,251,952 円　達成率 98%（売上目標 4,000 万円）

工賃支払い

30 年度工賃支払い額　7,691,000 円　一人平均　月額 49,301 円　13 名

年間売上高と平均工賃の推移



小牧ワイナリー

<平成 30 年度事業方針>

目　的：ワイン生産体制の確立

目　標：①売り上げ目標　6,695 万円

②自家醸造ワイン生産 2 万本、販売 3 万 3 千本（その他、輸入ワイン含む）

③工賃支払い 2,088 万円　平均／月 48,347 円

④利用者 34 名に増員

⑤生活支援の充実

Ⅰ．総括

30 年度 4 月に特別支援学校卒業生 1 名、年度途中に 1 名が新規入所、10 月に 1 名残念ながら本人の希望で退所されましたが、就労移行支援利用者 1 名とＢ型利用者 1 名の計 2 名が一般就職を果たし、退所されました。8 月からは就労移行支援事業を廃止し、新たに生活介護事業を開始。30 年度 3 月末時点で、Ｂ型 29 名、生活介護 5 名の計 34 名の利用者（充足率 85.0%）と共に事業を行いました。年度目標に対して①売上 5,800 万円、②自家醸造約 1 万 5 千本、海外ワイン約 1 万 2 千本、販売本数計約 2 万 7 千本、③工賃支払 1866 万円、平均/月 44,245 円、④利用者 34 名、⑤外出イベントを開催、小牧市自立支援協議会における、利用者が地域生活をおくるための必要施策の検討を図る、という結果でした。

年度目標に対し、施設運営は利用者の退所や、体調悪化に伴う長期休職などもあり、施設収入が想定よりやや減少、運営資金的には早く定員を満たす必要があります。また、平均支払工賃は退所者や休職者の影響で、額面は減少していますが、概ね順調に上がっています。しかし昨年に引き続きワイン生産体制の確立が最重要課題であると認識しており、30 年度は自社圃場葡萄の収穫量が落ち込み、来年度は自家醸造ワインの生産減少が見込まれる中ですが、売れる製品の開発による売上への反映が求められます。また、今年度は利用者が地域で暮らす基盤整備を進めるため他事業所とのネットワーク構築、小牧の福祉関係者の中で提言を進めました。

Ⅱ．重点目標の実施

①売り上げ目標　年間売上高　5,827 万円（売上目標の 87.0%）

ワイナリー開所 4 年目。本物になれるかどうかの時期に来ています。輸入ワイン販売ではなく自家醸造ワインの販売数を伸ばす為、良い葡萄を作り、手に入れ、ワインを生産できるのか。そこにポイントがあります。自家生産体制構築と質の向上が今後 10 年の課題であることが浮き彫りになっています。

②ワイン販売 27,000 本（販売目標 33,000 本の 82%）

多治見圃場と小牧圃場、購入した葡萄から作ったワイン 15,000 本。輸入 11,000 本。計画は自家ワイン 20,000 本、輸入 12,000 本。ワイン醸造の味と品質は年々向上しており、焦らず、地力をつけること。この点の継続のみだと認識しています。仕入れた輸入ワインの在庫減少に伴い、売上は厳しい状況が予想されます。しかしながら、地に足をつけた本物のワイナリー、障害を持った方々が働ける事業所となるには畑での成果物を増やすことに注力し、時間をかけていくこと

が最善であると認識します。

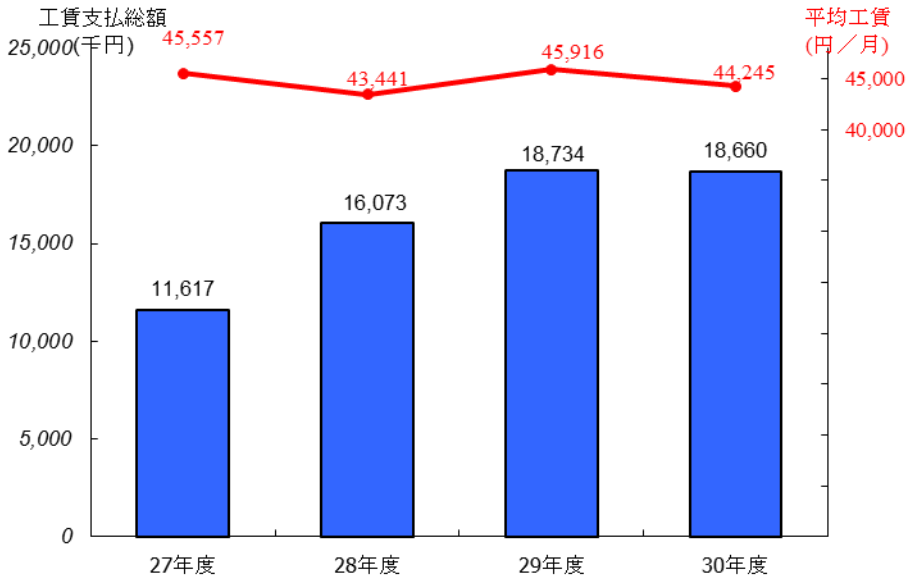
③年間工賃支払額　1,866 万円（目標達成率 89.3%）

平均工賃　44,245 円／月（目標達成率 91.5%）

工賃が高額の退所者、休職者の影響を受け、平均工賃額は目標に達していませんが、その他の方の工賃支払に関しては順調に推移しています。事業継続性と売上とのバランスを考慮、上げ幅の検討が課題となってきています。

支払総額	18,660,455 円	夏・冬ボーナス・諸手当含む（前年比 99%）							
（29 年度）	18,733,735 円	（前年比 117%）							
（28 年度）	16,073,193 円	（前年比 138%）							
（27 年度）	11,617,028 円								
平均工賃	44,245 円	退所者・中途入所含む月平均　支払い月数　422 ヶ月							
（29 年度）	45,916 円	支払い月数　408 ヶ月							
（28 年度）	43,441 円	支払い月数　370 ヶ月							
（27 年度）	45,557 円	支払い月数　255 ヶ月							
2 年目以降	45,512 円	2 年目以降所員の月平均　支払い月数で割った数字							
（29 年度）	49,423 円								
（28 年度）	60,550 円								
（27 年度）	56,607 円								
平均工賃	9 万円以上	8 万	7 万	6 万	5 万	4 万	3 万	2 万	1 万
（30 年度）	0 人	4 人	4 人	2 人	3 人	2 人	12 人	9 人	1 人
（29 年度）	2 人	3 人	3 人	2 人	4 人	0 人	9 人	6 人	6 人
（28 年度）	1 人	3 人	2 人	4 人	2 人	2 人	3 人	5 人	9 人
（27 年度）		3 人	3 人	3 人	2 人	3 人	1 人	2 人	7 人

工賃支払額と平均工賃の推移



④利用者 34 名に増員（目標 34 名の 100%）

年度終わりに 34 名で計画通りに推移しています。新年度新たに 3 名利用開始予定です。

⑤生活支援の充実

この数年行ってきたお出かけ企画は引き続き継続、社会性を広げる訓練としています。また、今後の地域生活を踏まえ、小牧市自立支援協議会就労部会の代表として、協議会他部会や委員と話し合いを進め、小牧市としてどのような施策が必要であるのかを話始めました。

予算化、事業所数、サービス内容、継続性など短期間で解決できるものではないため、まずは投げかけに成功した年として、次のステップを目指します。

Ⅲ．売り上げ

年間売上：58,277,540 円（87.0%）　年間売上目標：66,950 千円

平成 30 年度は、ワイン販売の売上が 43,757,865 円、通信販売、カフェ、食品、その他売上が、16,042,214 円となりました。内訳は下記のとおりです。

販売実績

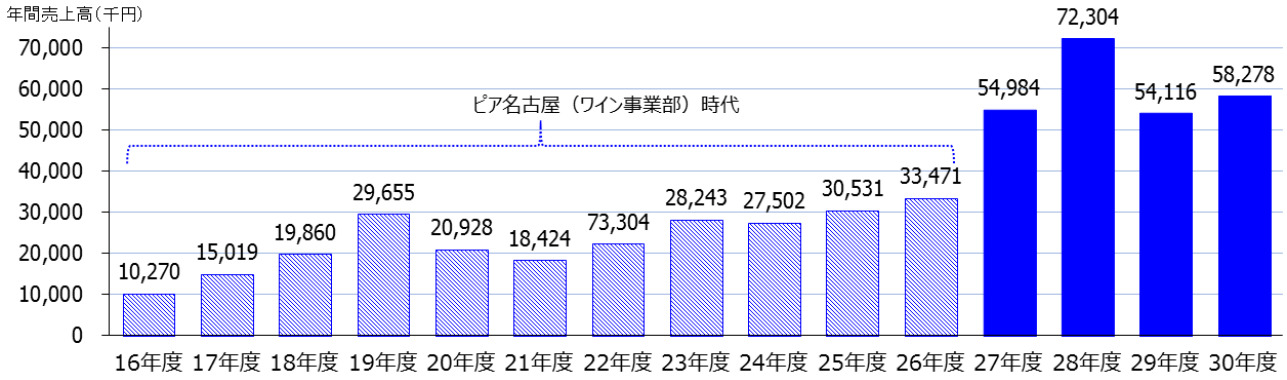
① ワイン販売

内訳	売上本数	売上額
小牧・多治見醸造ワイン	14,879 本	22,479,003 円
オーストラリア圃場ピアワイン	6,932 本	11,352,316 円
世界の修道院ワイン	4,977 本	9,926,546 円
合計	26,788 本	43,757,865 円

② カフェ、食品、その他

内訳	売上数	売上額
食品販売	9,974 点	3,947,931 円
カフェメニュー	11,428 点	4,924,677 円
その他（送料、箱代、物品販売等）		7,169,606 円
合計		16,042,214 円

年間売上高の推移



自立生活情報センターサポートJ

＜30 年度事業方針＞

講師派遣事業が障害者の働く場としての取り組みであることを多方面にご理解を頂き、支援、派遣講師の育成、派遣メニューの見直しを行います。

Ⅰ．総括

(1) 講師派遣事業への理解と支援〔派遣目標 25 件〕

社会福祉協議会からの依頼や新規依頼先から講師派遣を含んだ体験資料作成やアンケートの集計・分析の受託があり、中部運輸局主催の「心のバリアフリー教室」では、公共交通事業者や自治体職員、学生等に対し、車いす体験及びアイマスク・白杖体験、ワークショップをおこないました。

(2) 派遣講師の育成

当事者講師の育成では、マンツーマン形式に体制を変えておこない、各人の成長に合わせた勉強内容としました。その講師が苦手とする部分を少なくすることができました。それぞれの講師経験者の伝え方や生活内での経験、意見などを共有するため、気軽に話し合える場を設け意見交換を行い、今後の講師派遣に生かせるよう取り組みました 。

(3) 派遣メニューの見直しと更新

東京 2020 オリンピック・パラリンピック教育実施校の指定を受け、取り組みをしている小学校に、パラスポーツに取り組んでいる方を派遣しました。日頃の練習や大会について講話をしました。

Ⅱ．事業の実施状況

	特別支援・養護学校	小中高	大学･専門	企業等研修	合　計	実習･見学講師	派遣講師	合　計
派遣	0 件 (0 人)	15 件 (893 人)	0 件 (0 人)	4 件 (244 人)	19 件 (1,137 人)		33 人	33 人
見学実習	0 件 (0 人)	10 件 (85 人)	94 件 (682 人)	2 件 (31 人)	106 件 (798 人)	165 人		165 人
合計	0 件 (0 人)	25 件 (978 人)	94 件 (682 人)	6 件 (275 人)	198 件 (1,935 人)	165 人	33 人	198 人

( ) 内受講者数

Ⅲ．継続課題

(1) 講師派遣事業への理解と支援

講師派遣事業への理解と支援について、福祉体験を行っている市内外の社会福祉協議会や中部運輸局等との関係づくりと新規講師派遣先の獲得が課題です。今後も理解を得るよう努めます。

(2) 派遣講師の育成

当事者講師育成について、一歩ずつ確実に実力をつけていける取り組みを進めていきます。

【基幹】昭和区障害者基幹相談支援センター（昭和区障害者地域生活支援センター）

＜30 年度事業方針＞

昭和区をはじめ名古屋市内の障害者を対象とした相談、サービスの調整、サービス利用計画の作成、自立支援連絡協議会（以下「協議会」）の運営に、以下の目標をもって取り組みます。

（1）連携強化：協議会をはじめ福祉分野やその他の関係機関との連携を図ります。
（2）本質追及：コミュニケーションを密にし、利用者の希望の本質を追求します。
（3）資質向上：専門員のスキルアップと連携を強化し、ワンストップサービスをめざします。
（4）自立支援：地域以降の推進とともに、親亡き後を見据えた親元からの自立を支援します。

Ⅰ．総括

（1）連携強化

・関心の高かった防災に関して、これまでの部会ごとの取り組みを「防災部会」として立ち上げ、サービス種類で分けられていた部会の枠を超えた連携強化に取り組むことができました。
・協議会として勉強会や講演会を開催すると共に、部会の企画も協議会全体に参加を呼び掛け関係機関との連携を図りました。
・部会の中で関心の高い事柄を抽出し、議題にすることで参加率の向上を図りました。

（2）本質追及

・利用者と向き合い、意志を尊重し、その人が抱えている困りごとの本質（真のニーズ）を追求し、一緒に解決に向けて取り組みました。

（3）資質向上

・専門員の資質向上をめざすため、高次脳機能障害や HIV、依存症、摂食障害などの勉強会に参加したほか、岡崎刑務所への見学にも参加しました。
・定期的な会議の開催だけでなく、必要に応じて話し合いを行うことで情報の共有や専門員同士の連携強化を図りました。
・専門員の資質向上や連携強化によって、相談支援の最後の砦としての役割を担うことが出来るよう取り組みました。

（4）自立支援

・自立体験室（サマリアハウス）と協力し、スムーズな地域移行に向けて取り組みました。
・親元からの自立をめざすため、自立体験室や相談支援サマリアハウスと連携した取り組みが行われました。

Ⅱ．事業の実施状況

１．相談支援を利用している障害者等の実人数

	実人数	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	その他
障害者	96	59	2	27	15	4	2	0
障害児	8	2	0	4	1	1	0	0
計	104	61	2	31	16	5	2	0

２．支援内容・方法

	福祉サービス	障害理解	健康医療	不安解消	保育教育	人間関係	家計経済	生活技術	就労	社会参加	権利擁護	その他	計
訪問	929	0	172	29	0	53	49	152	5	3	21	5	1,418
来所	72	0	10	50	0	3	15	10	11	0	0	3	174
電話	213	0	32	129	0	11	11	24	1	1	1	3	426
メール	193	0	45	70	0	8	3	25	1	0	0	3	348
計	1,407	0	259	278	0	75	78	211	18	4	22	14	2,366

３．昭和区自立支援連絡協議会

総会（全体会）	部会	研修会	その他	計
1	49	2	3	55

４．サービス利用計画、認定調査、配食サービス

サービス利用計画	継続サービス利用支援	障害支援区分認定調査	配食アセスメント
28 件	53 件	271 件	16 件

Ⅲ．継続課題

・協議会（部会）の開催方法や運営方法等について、今後も検討を重ね参加率向上をめざします。

・研修会や講演会に参加してきましたが、事業部内での勉強会を行うことができませんでした。今後は外部の研修と合わせて、事業部内での勉強会を行い専門員のスキルアップをめざします。

【特定】相談支援事業所 サマリアハウス

＜30 年度事業方針＞

AJU 自立の家に関係する利用者を中心に、相談・サービス調整・サービス等利用計画作成に取り組みます。

○一人ひとりが主人公となる生活づくりを目的とします。

○サービス提供事業者等との間に入り、利用者の主体性が尊重される環境づくりを目的とします。

Ⅰ．総括

①AJU 自立の家関係者への支援強化

・生活に寄り添う専門員だからこそできる生活全般の把握、そこから見える課題や気づきを、法人内・外の事業所と連携協力・情報共有し、安全快適な生活の提案に努めました。

・福祉ホーム卒業生、身体・知的・精神障害の利用者、高齢化・二次障害の利用者、介助量が多く医療と密接する利用者の支援についての将来を見据えた中長期計画を作成しました。

・二次障害の利用者に、ヘルパー導入や法人内で担いきれないサービスを他法人事業所に紹介するといったサービス利用計画については対象者がありませんでした。

・担当者会議など他機関・多職種との関わりにより知識を高めることはできたが、介護保険制度をはじめ多分野にわたる勉強会や各種研修への参加は十分にできませんでした。

②利用者の主体性が最大限確保される環境づくり

・“介助者(支援者)”主体のサービス提供がみられた場面で、当事者主体の支援を忘れないよう専門員として提案や投げかけを行うことができました。今後も忘れずに努めます。

・自立支援連絡協議会での他法人事業所との関係強化、行政・医療・基幹相談支援センター等との連携強化により相談の多様化に対応できる環境整備をすることができました。

Ⅱ．事業の実施状況

１．相談の手段

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	合計
電話	551	332	271	8	0	8	1,170
来所	106	51	8	0	0	3	168
訪問	131	136	94	7	0	1	369
合　計	788	519	373	15	0	12	1,707

２．支援内容

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	合計
福祉サービス利用について	671	341	294	13	0	10	1,329
その他	139	182	79	2	0	3	405
合　　計	810	523	373	15	0	13	1,734

３．計画相談の実施状況

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	合計
利用計画（案）作成	44	39	23	1	0	1	108
利用計画書作成	47	36	24	1	0	1	109
モニタリング実施	66	58	46	5	0	0	175
合　　計	157	133	93	7	0	2	392

Ⅲ．継続課題

①AJU 自立の家関係者への支援強化

・安全快適な生活が提案できるように、生活全般の把握、そこから見える課題や気づきを法人内や他法人事業所との連携協力・情報共有に継続して取り組みます。
・中長期計画を基に、福祉ホーム卒業生、高齢化・二次障害、医療と密接する利用者等の支援について、将来の具体的な枠組みを検討します。
・専門員のレベルアップを図るため、障害者団体や公的機関等が開催する勉強会や研修への参加や介護保険制度をはじめ多分野にわたる勉強会を継続します。

②利用者の主体性が最大限確保される環境づくり

・当事者主体の支援を忘れないため、“介助者(支援者)”主体のサービスとならないようよう相談支援員として提案や投げかけを行います。
・自立支援協議会での他法人事業所・行政・医療・基幹相談支援センター等との連携強化により支援の幅を広げ、多様化する相談に対応します。

【介護】マイプラン・ケアマネジメントセンター

■居宅介護支援（ケアマネジメント）

＜30 年度事業方針＞

ほかっと軒からの改称後も「少しだけお節介」は引き継ぎ、高齢者および障害者の主体性と自立性が尊重される生活の実現と自分の生活を自分で組み立てる支援を目的とします。

（1）利用者がその中心となるネットワークをめざします。

（2）主体性と自立性が尊重される生活の実現をめざします。

（3）介護保険と障害福祉の違いを踏まえた分かりやすい情報提供をめざします。

（4）地域全体の障害者支援力のボトムアップをめざします。

Ⅰ．総括

(1)利用者がその中心となるネットワークをめざします。

・利用者が“買い物難民”にならないよう、学生ボランティアと連携しセカンドハーベストからの食材を週 1 回届けました。また、社協のボランティアによる制度外の支援を行いました。

(2)主体性と自立性が尊重される生活の実現をめざします。

・「ケアプランの自己作成」（セルフプラン）に情報提供を行いました。その結果、1 名の方がケアマネを利用せずに自己作成を選択されました。

(3)介護保険と障害福祉の違いを踏まえた分かりやすい情報提供をめざします。

・30 年度に 65 歳到達される 2 名に対して、介護保険制度の説明を行い、移行後の変化をお伝えして、対応策を検討しました。すでに到達されている高齢障害者にも、その都度説明しました。

(4)地域全体の障害者支援力のボトムアップをめざします。

・計画で示した地域の勉強会はできませんでしたが、いきいきセンターでの定例会や地域の集まりに参加し、障害福祉サービスについて疑問が上がった際には率先して説明し、情報提供を行いました。

Ⅱ．事業の実施状況

介護保険給付

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用者数	68（12）	66（11）	55（9）	59（8）	60（8）	59（8）
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用者数	55（8）	52（10）	43(9)	41（9）	40（9）	38（9）

（括弧内は予防給付のケアプラン数。）

新しい総合事業（ケアマネジメント A）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用者数	12	11	10	7	8	7
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用者数	6	5	5	6	7	7

Ⅲ．継続課題

・法人内で 65 歳に到達する方はますます増加するので、法人全体で高齢障害者の問題を考えていく場を作っていく必要を感じています。

・男性のケアマネのみとなり、女性のケアマネがいなくなりました。支援のジェンダーバランスを考慮した支援体制の構築が喫緊の課題となります。

■日常生活自立支援事業

＜30 年度事業方針＞

判断能力が低下した人たちの個々の主体性を尊重した安心・安全な生活を目的とします。

（1） 日常生活を円滑に営むことができるシームレスな（切れ目のない）支援をめざします。

（2） あらゆる場面に対応できるスタッフを養成します。

（3） 複合的な困難を抱える利用者を支えられる体制の強化をめざします。

Ⅰ．総括

(1)日常生活を円滑に営むことができるシームレスな（切れ目のない）支援をめざします。

・従来の制度では立ち行かない発達障害者の就労先や相談員と定期で話し合い柔軟な支援を展開。また、精神障害者の看護士や PSW と連携し福祉サービスの必要性を説き、訪問介護の利用に結び付けました。

(2)あらゆる場面に対応できるスタッフを養成します。

・県社協が主催する「担当職員研修」の中で、身元保証の勉強会に参加し、他の市町村社協の専門員と身元保証団体についての情報や課題を共有しました。

(3)複合的な困難を抱える利用者を支えられる体制の強化をめざします。

・相談支援事業部内で本事業の説明を行い、事業部内のメンバーが支援員としなる体制としました。

Ⅱ．事業の実施状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
利用者数	12	12	12	12	12	12
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用者数	12	12	12	12	12	12

Ⅲ．継続課題

・認知症、知的精神障害の方以外でも、金銭管理の援助を必要とする方は多く見えることから、法人独自の支援体制を必要としています。また、事業を支える支援員の計画的な養成が必要です。

名古屋マック（名古屋マック・ＴＹＭルーム・ピートハウス・多機能型施設）

＜30 年度事業方針＞

アルコール等を使用することなく社会生活を営みたいというアルコール依存症者の手助けをします。

Ⅰ．総括

多機能型施設建設に向けた取り組みは、名古屋市中川区の市有地での施設整備に応募して、運営法人として選ばれました。

名古屋マックの新規通所者6名ありましたが､途中退所者が8名と修了者2名がありました。後半に退所者を多く出したことは大きな課題として残りました。

プログラムの向上に関しては現状の建物では限られたことしかできず、プログラムに大きな変更はありませんでした。多彩なプログラムを提供するためには職員のスキルアップは非常に重要なことであり、今期も様々な研修やセミナーに参加しました。また多機能型施設を見据えて農福連携フォーラムに参加しました。

広報活動は、定期的な病院等には滞りなくメッセージを運びました。新たに名古屋刑務所からメッセージの依頼があり、今年度は 6 回開催しました。通年ではマックを利用する方は増えていますが、後半に退所者が多く出たことから、再度区役所や医療機関への広報活動を行いました。

Ⅱ．事業の実施状況

１．名古屋マック

①利用者の状況

・平成 31 年 3 月末日登録利用者数 15 名。（延べ 6,029 名。一日平均 16.5 名）
今期の入所者 6 名で、退所者は 10 名です。その内訳は 1 名が職場復帰(自営)と 1 名がマックのスタッフになり、残りの 8 名は指示退寮です。

・2 回のマックバザー、感謝の集い、夏季研修会、定期的なレクレーションを実施しました。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用延べ人数	527	538	484	481	516	500	506	504	529	494	474	476	6,029
一日平均利用者	17.6	17.4	16.1	15.5	16.6	16.1	16.3	16.6	17.1	15.9	16.9	15.4	16.5

２．ＴＹＭルーム

①利用者の状況

・平成 31 年 3 月末日利用者数 11 名。（延べ 2,641 名。一日平均 8.4 名）で行いました。29 年度（延べ 2,886 名。一日平均 9.2 名）を下回るものとなってしまいました。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用者数	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	11	111
利用者延べ数	234	225	216	217	225	208	225	217	217	225	200	232	2,641
ピートハウス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ピート第2ハウス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所（自宅）	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	109
一日平均利用者	9.4	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.4

②作業プログラム、レクレーションについて

・定期的なレクレーション及び研修会はマックと合同で行っています。独自なものとして毎週月曜日行う温泉プログラムと3月には、伊勢の一泊研修会を行いました。
・主な清掃・除草作業先は、城北橋教会、多治見教会、働く人の家、東海住宅、小牧ワイナリー、個人宅1件です。
・仲間宅でミーティングを行う訪問ミーティングを、高齢になった卒業生への支援として継続しています。

３．ピートハウス

①利用者の状況

・平成31年3月末日利用者数8名。（延べ3,731名。一日平均10.22名）で行いました。29年度（延べ3,878名。一日平均10.52名）を下回るものとなってしまいました。
今期は6名が入寮しました。退寮者は10名で、2名が自活退寮、8名が指示退寮です。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ピートハウス	6	6	5	5	5	4	4	4	4	6	5	5	59
ピート第2ハウス	6	6	4	5	5	6	6	6	6	6	5	5	66
入　寮　者	0	0	0	1	1	0	0	0	2	1	0	1	6
自 活 退 寮	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
指 示 退 寮	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3	8
月末継続者	12	9	9	10	10	10	10	10	12	10	10	8	120

４．病院メッセージ

・実施回数延べ：85回　参加人数延べ：1,181名
定期的にメッセージを運んだ病院は8か所ですが、その他に名古屋刑務所へのメッセージが始まりました。

５．多機能型施設

・長年の懸案であった多機能型施設については、名古屋市からの「中川区富永の市有地におけるアルコール健康障害のある方の社会復帰に向けた生活訓練や就労支援等を実施する施設の整備計画」に応募しました。
名古屋市によるプレゼンテーション･ヒアリングの結果､12月末に施設整備法人として選定、3月の市議会において予算が認められ、平成31年度当初予算に計上されました。

Ⅲ．継続課題

・マック、ＴＹＭルームのさらなるプログラムの充実。+
・多機能型施設の建設と移行の準備（サービスの充実、安定した運営）
・スタッフの育成。
・安定した利用者確保を目指す広報活動。
・職員研修

アジア障害者支援プロジェクト

Ⅰ．総括

日本からタイへ送った車いすを整備し、タイの地方都市、カンボジアに届けることができました。
7 月に事務局長他 2 名のスタッフが訪タイし、事務所・倉庫の見学と現在のタイ AADP 活動状況や課題、タイの障害者福祉の状況、今後のアジア障害者支援プロジェクトの方向性等々について現地スタッフと意見交換をおこないました。また、10/31 から 11/13 までの 2 週間、タイの現地スタッフ 2 名が来名しました。ワインフェスタでのアジアの小物販売の手伝い、イエローレシートキャンペーンへの参加、12 月に日本からタイへ送る車いすの選定や整備等をおこない、日本の事務局メンバーとも意見交換・交流をおこないました。さらに、3 月にはタイの現地スタッフ 1 名が来名し、今後のアジア障害者支援プロジェクトの方向性について、2 年を目途に収束させるか、継続するか否か話し合いの場を持ちました。
日本側からは、タイ AADP が今後も活動を継続していけるように取り組んで欲しいと伝え、今後の方向性については、もう少し活動をする中で、見出していく予定です

Ⅱ．事業の実施状況

（1）車いすの贈呈

「名古屋市国際交流活動助成金」を受け、12 月に豊橋西ライオンズクラブ様のご協力のもと、タイへ贈る車いすの箱詰め作業をおこない、手動車いす 97 台（内介助用 22 台） 簡易電動車いす 4 台、 電動車いす 15 台、 シャワーチェア 2 台の計 118 台をタイに送りました。
箱詰め作業の当日は、中日新聞からの取材があり、作業の様子が新聞に掲載されました。
豊橋西ライオンズクラブ様は 1 月にタイ AADP 事務局に来所され、アジア障害者支援プロジェクトのタイでの活動の様子や日本から贈られた車いすがどのように活用され、車いすを贈られた障害者がどのような生活をしているかなどをまとめた DVD を観ていただき、意見交換をおこないました。

（2）アジア諸国（タイＡＡＤＰ他）訪問

プロジェクトの事務局長がタイ AADP へ 5 月、7 月、9 月、12 月、1 月の計 5 回訪問しました。
現地スタッフとの調整や、車いす整備ならびに整備技術の指導、タイの地方都市やカンボジアへの車いすや部品の贈呈、障害者団体の活動の様子の視察と意見交換などをおこないました。
また、8 月には日本から障害のあるプロジェクトメンバーが介助者 2 名と一緒に訪タイし、車いすのメンテナンス作業や倉庫からの車いす移動、車いす贈呈の手伝い等をおこないました。

（3）アジアの障害者が製作した小物の販売

小牧ワイナリー春の葡萄酒まつり、わだちまつり、多治見ワインフェスタ、障害者と市民のつどい、昭和生涯学習センターまつりに出店し、タイの障害者が作成した小物やアジアの小物の販売をおこないました。

（4）イエローレシートキャンペーン

(株)イオン様が実施している「イエローレシートキャンペーン」に年間 6 回、のべ 17 名が参加をし、プロジェクトへの支援を呼びかけました。

（5）広報活動等

（ア）写真展の開催

ユニー（株）様のご協力のもと、6/2、3「リーフウォーク稲沢」、6/30、7/1「アクアウォーク大垣」でそれぞれおこなわれた「ECO 博」において、プロジェクトの活動の様子を紹介する写真の展示ならびにアジアの障害者が製作した小物の販売をおこないました。

（イ）名古屋シティハンディマラソン海外選手接遇への協力

10/8（日）におこなわれた名古屋シティハンディマラソンにタイ、韓国、バングラデシュ、ベトナムから招待された 8 名の選手の滞在期間中の接遇のお手伝いをおこない、相互交流を図る機会となりました。マラソン当日の競技終了後には、栄周辺にて招待選手と一緒にプロジェクトの活動アピールならびに、街頭募金をおこないました。

また、タイ、バングラデシュ、ベトナムからの招待選手にはそれぞれ、車いすを贈呈しました。

（ウ）アジアの障害者支援に関する学習会

日時：11 月 14 日（水）18:00~19:30

会場：サマリアハウス

話題提供者：宮本泰輔氏（DPI 日本会議プロジェクトマネージャー）

小倉國夫氏（アジア障害者支援プロジェクト事務局長）

アジア諸国、南アフリカでの障害者運動、障害者の自立を支援してきた DPI 日本会議プロジェクトマネージャーである宮本泰輔氏をお招きし、小倉事務局長と対談をおこなう学習会を開催しました。対談では海外での活動を通した貴重な体験談やエピソード等を語り合っていただき、「アジアにおける障害者支援とは何か」を考える機会となりました。また、懇親会も併せておこない、参加者が宮本氏と知り合い、情報交換と親睦をはかる機会となりました。

Ⅲ．継続課題

◆今後のプロジェクトの方向性の具体化。

◆事務局体制の見直しとこれまでタイ、日本でそれぞれおこなっていた活動についての見直し。

◆各種助成金の申請等、活動資金の調達。

社会啓発・社会貢献事業室

Ⅰ．総括

日常業務である車いす貸出事業では、福祉制度を利用して車いすを使用することができない高齢者や障害者、ケガなどで一時的に車いすを必要とする方に対し、車いすの無料貸出をおこない、年間 4,127 件の実績をあげました。貸出用車いすが在庫不足となったため、車いす寄付のお願いチラシを作成し、アピールした結果、車いすメーカーより 40 台の車いすをいただき、長年使用し劣化した車いすとの入替を行うことができました。

ピア・カウンセリング、自立生活プログラムなどの自立生活支援事業や愛知 TRY など障害者団体がおこなう活動を通して、障害当事者のエンパワーメントを図ることができました。中でも、「名古屋城木造天守にエレベーター設置を実現する実行委員会」の活動ではアピール行動や署名活動等を通して広く社会に対する問題提起をおこなうことができました。

また、新たに国際支援の担当を担い、JICA 研修、モンゴルからの研修受入、ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業第 20 期研修生受入れなどをおこないました。

Ⅱ．事業の実施状況

（1）自立生活支援事業

・ピア・カウンセリング長期講座

日時：2019 年 1 月 17 日～20 日（3 泊 4 日）、2 月 15 日～17 日（2 泊 3 日）

参加者：10 名（講師陣を含む）

・ピア・カウンセリングオンゴーイング講座

全 22 回開催し、延べ 39 名の当事者が参加されました。2018 年度は特に 2 名の方が継続して参加され、2019 年度からＡＪＵ車いすセンター主催で行う講座を一緒に担っていく人材の育成に繋がりました。

・自立生活プログラム

開催時期：2018 年 5 月～2018 年 7 月

開催場所：相馬ハウス・昭和生涯学習センター

参加人数：4 名

また、今年度は自薦ヘルパー推進協会の研修に行き、資料の見直しなどの参考になりました。

・自立生活体験室

利用人数：5 名

利用日数：延べ 46 日間

ＡＪＵ自立の家と連携をとりながら、施設訪問し、利用説明を行いました。福井で開催された車いすバリアフリー集会に参加された施設入所者の女性が体験室に繋がり、地域での生活を目指し始めました。

また、体験室利用までは繋がらなかったものの、短期入所など制度の適用が難しい方への相談もあり、情報提供を行いました。

（2）車いす貸出事業

【1．貸出実績】

	新規			更新	実績
		個人	団体		
4月	97	50	47	286	383
5月	74	47	27	286	360
6月	79	33	46	289	368
7月	54	39	15	275	329
8月	95	50	45	273	368
9月	39	28	11	291	330
10月	83	45	38	278	361
11月	104	37	67	286	390
12月	42	42	0	282	324
1月	35	29	6	266	301
2月	54	29	25	257	311
3月	45	43	2	257	302
合計	801	472	329	3,326	4,127

【2．機種別実績（新規）】

車いす	歩行器	杖	スロープ	合　計
762	10	7	22	801

【3．年齢別（新規個人）】

年齢	利用者
0～9	104
10～19	27
20～29	32
30～39	36
40～49	73
50～59	62
60～69	69
70～	69
合　計	472

（3）福祉相談、情報サービス事業

・相談事業

日常業務の中で車いすの無料貸出に関する相談等を受けています。高齢の家族を旅行に連れて行きたい、子ども用車いすに関する問い合わせが数多くありました。

・障害者 110 番

開設日：毎週２回、月曜日と木曜日の午前 10:00～午後 4:00

＜主な相談内容＞

障害者雇用に関する水増し問題、ユニバーサルタクシーの乗車拒否等の交通問題、温泉施設での車いすユーザーに対する入湯拒否、刑事事件に巻き込まれた方からの相談など

（4）啓発事業

・福祉映画祭

日 程：2019 年 2 月 8 日（金）、9 日（土）

会 場：名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり翼館 4F クラインホール

参加者：2/8：91 名、2/9：134 名　計 225 名

２日間で４本の映画上映と映画に関する企画、「パフォーマンスとしゃべり場」を開催。

（5）障害者団体の事務局並びにネットワークづくり

・名古屋城木造天守にエレベーター設置を実現する実行委員会」を設立し、その事務局を担いました。6 月には愛知県内・名古屋市内・全国各地の障害者団体からの参加者およそ 600 名と一緒に、アピール行動をおこない、その様子は多くのマスコミに取り上げられ、社会への問題提起をおこなうことができました。また、2 月には名古屋市に対してエレベーター設

置をもとめる市民署名 13,674 筆を提出しました。

・「愛知県重度障害者の生活をよくする会」、「愛知県重度障害者団体連絡協議会」、「愛知障害フォーラム（ADF）」の事務局の一翼を担い、団体の日常的業務や各団体がおこなう行政交渉、学習会、講演・シンポジウム、イベント等の企画・運営にも中心的に携わりました。

・「愛知 TRY」を愛知県内・名古屋市内の鉄道駅周辺を中心に年間 11 ヶ所で開催しました。延べ 206 名が参加し、計 182 の店舗に働きかけた結果、47 の店舗にステッカーを貼ってもらうことができました。また、4 月には「名古屋大行進」を実施し、約 120 名が愛知県・名古屋市のバリアフリーを訴えて市内をパレードするなど、アピール行動をおこないました。

・全国団体である「DPI 日本会議」、「全国自立生活センター協議会（JIL）」、「障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動」がおこなう総会や学習会、行政交渉や院内集会等に参加し、全国各地の障害者団体の方々との交流や情報交換を通して、国の政策動向や課題などを学ぶことができました。

（6）国際支援（海外からの研修・視察の受入れ等）

①JICA　共生社会実現のためのアクセスビリティの改善~バリアフリー化の推進～

日程：2018 年 6 月 11 日(月)~6 月 29 日(金)

研修生：10 名／ブータン、コロンビア、エジプト、インドネシア、イラク、ジャマイカ、ケニア、モンゴル、スーダン、ウルグアイより各 1 名

②モンゴルからの研修生受け入れ

日程：10 月 3 日（水）～10 月 10 日（水）研修生：2 名

③名古屋シティハンディマラソン海外選手接遇への協力

日程：2018 年 10 月 4 日（木）～10 月 9 日（火）

招待選手：8 名／タイ、ベトナム、バングラディッシュ、韓国より各 2 名

④ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業第 20 期研修生受入れ

日程：2019 年 3 月 4 日（月）～3 月 19 日（火）研修生：ミャンマーより 1 名

（7）その他

・名古屋市障害者施策推進協議会、名古屋市障害者差別解消支援会議、障害を理由とする差別解消の推進に関する条例検討部会に当事者スタッフが出席をし、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する条例」、「名古屋市第 4 次障害者基本計画」に対し、意見提起をおこない、一定の意見を条例・計画に盛り込むことができました。

・地域との関わりとして「昭和区の福祉まつり実行委員会」、「昭和区自立支援連絡協議会」に参加しました。「あじゅら」などを通じて社会啓発及び余暇活動に力を入れました。

また、AJU 自立の家後援会がおこなう地域の方々との交流を目的とした「サタデーくらぶ」の企画・実施の一翼を担いました。

Ⅲ．継続課題

◆活動を担う障害当事者のエンパワーメントと育成。

◆活動に協力してくれる支援者の掘り起しと養成。

◆活動に必要な財源の確保。